

おなかの調子が悪い

ダイエット美容が気になる

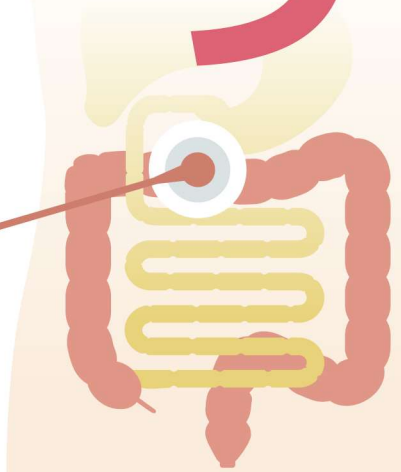
免疫機能を高めたい



そのおなかのお悩み

# 腸内フローラ

のせいかも？



あなたにぴったりの生活習慣のアドバイスレポートをお送りします！

検査費用：19,250円（税込）

## 検査結果レポートの内容がリニューアルされました

過去に腸内フローラ検査を受けたことがある方もぜひこの機会に検査を受けてみませんか？

### よりわかりやすく

レポートの構成を一新し、受診者の方が理解しやすい内容に変更しました。また、「有用菌」や「要注意菌」などわかりやすいカテゴリーも新設しました。

### より詳しく

腸内フローラの観点からみた、色々な疾患リスクなどの新しい項目が増え、より詳しい報告書になりました。

### より具体的に

管理栄養士監修による、具体的な受診者の方にあった生活習慣の改善アドバイスがレポート内でわかるようになりました。

＼こんな方におすすめの検査です！

お腹の症状でお悩みの方や  
大腸がんが心配な方



お肌のお悩みや  
更年期障害でお悩みの方



忙しくて生活が乱れがちの方



免疫機能を高めたい方



# 自宅で行う検査です。質問票への記入 & 採便の簡単検査！

## よくあるご質問



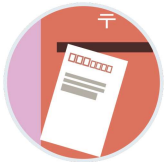
### ① 検査キットの購入

窓口にて、検査キットを購入します



### ② 自宅で採便

ご自宅で検査キットを使い、便を採取します



### ③ ポスト投函

採便したキットを同封の返信用封筒に入れポストに投函します



### ④ 検査結果受け取り

郵送で検査結果が返却されます(ポスト投函から4~6週間)

**Q** 検査を受けられない人はいますか？

**A** 抗生物質服用中や生理中は採便をお控えください。抗生物質の場合は、服用終了後、1ヶ月程度期間を空けて採便してください。

**Q** 腸内フローラとはなんですか？

**A** 腸内フローラとは、腸内に生息する常在細菌の集合体で、私たちの腸内には約100兆個以上の細菌がすみついています。近年腸内フローラのバランスは、全身の健康状態や疾患と密接な関係があることが、様々な研究で分かっています。

**Q** どのくらいの頻度で再検査すれば良いですか？

**A** 半年に1回~1年に1回、再検査をおこない、定期的に腸内フローラの状態を調べ、自分に最適な生活習慣の改善に取り組むことが重要です。

## 検査結果レポートイメージ (一部)

### 腸内フローラ判定

腸内フローラバランスを5段階で判定します。

### 疾患リスク判定

糖尿病、高血圧、大腸がんなどの腸内細菌からみた疾患リスクがわかります。

### 有用菌の割合

ビフィズス菌ややせ菌など良い働きをしている菌の割合がわかります。

**PART 1 腸内フローラのバランス(概要)について**

腸内フローラは、約1000種類以上の腸内細菌から構成されています。また、腸内フローラ全体のバランスに関する検査結果を確認しましょう。

**腸内フローラ(総合)判定**

腸内フローラを構成する菌のバランスをA-Eの5段階で腸内環境を評価しています。D、E判定の場合は、バランス調整(ファスバイオース)が勧められるため、積極的な生活習慣の改善が推奨されます。

**E判定 バランスが悪い (ディスバイオーシスの疑い)**

コメント: 有用菌が全体的に少なく、バランスが悪化した腸内フローラです。生活習慣を改善して、3ヶ月~半年後を目安に再検査をおすすめします。

前回: D 前々回: -

**腸内細菌の多様性判定**

腸内細菌の多様性が高いほど、理想的な腸内環境に近づきやすくなります。腸内細菌の種類が豊富で、各菌がバランス良く存在していると、多様性が高くなります。

**多様性スコア: 5.81**

コメント: 多様性が平均的です。今より更に多様性が高らねばなりません。ファスバイオースを日頃の食事から意識しましょう。

前回: 悪い(4.55) 前々回: -

**健康長寿菌判定**

健康長寿の人の腸内に多い、「ビフィズス菌(酢酸産生菌)」と「フィッカリバクテリウム属(酢酸産生菌)」を十分に保有していたかどうかを判定しています。※各菌の詳細結果はp.4「個別注目菌の割合」を参照してください。

**2種とも豊富**

コメント: ビフィズス菌(酢酸産生菌)が不足気味です。p.4の個別注目菌の結果を確認しましょう。

前回: 2種とも豊富 前々回: -

**PART 2 腸内フローラの観点からみた疾患リスク**

腸内フローラは、全身の様々な疾患と深い関わりがあります。今回の腸内フローラの結果からみた各疾患リスクを確認し、将来の疾患リスクを減らせるよう生活習慣(食生活)に気を配りましょう。

**疾患別リスク判定**

**機能性下痢 (IBS)**

腸内フローラのバランスから見た、機能性下痢(IBS)のリスクは低いと考えられます。引き続きp.5のような生活習慣を推奨しましょう。

前回: 低 前々回: -

**血圧系ディスバイオーシスコア**

コメント: 高血圧の人に似た腸内フローラの特徴があるため、今後注意が必要です。p.5のアドバイス参考に、今後生活習慣を改善していきましょう。

前回: 低 前々回: -

**糖代謝系ディスバイオーシスコア**

コメント: 腸内フローラのバランスから見た、糖尿病のリスクは非程度です。p.5のアドバイス参考に、日頃の生活習慣を見直しましょう。

前回: 低 前々回: -

**大腸画像検査おすすり度**

コメント: 大腸がんや大腸がん前駆体の関連が示唆されている菌(フコバクテリウム属)を多く保有しています。今後、大腸内視鏡検査や大腸CT等の定期的な交換をおすすめします。

前回: 低 前々回: -

**個別注目菌の割合**

ここでは、「有用菌」(腸内に十分保有していることが望ましい菌)、「注意菌」(腸内には多すぎないほうが望ましい菌)について、それぞれの個別判定の結果を示しています。なお、各菌の結果は、その菌が検出された菌の腸内細菌全体に対する割合で示しています。

菌名	結果割合	判定(良好)
酪酸産生菌	9.24%	0.67%~
酢酸産生菌	1.17%	2.79%~
プロピオン酸産生菌	0.00%	0.02%~
エクオール産生菌	0.87%	0.02%~
やせ菌	0.00%	0.13%~
アクティブ菌	0.54%	1.80%~

菌名	結果割合	判定(良好)
不摂生菌	14.57%	0.00%~
エシェリア菌	0.24%	0.00%~
肥満菌	14.57%	0.00%~
便秘関連菌	0.15%	0.00%~

### 健康長寿菌判定

元気な高齢者の方に多い菌を3段階で判定します。

### 要注意菌の割合

便秘菌や肥満菌など悪い働きをしている菌の割合がわかります。

こちらのQRコードより腸内フローラ検査の内容や、腸内フローラについて動画にて確認することができます。



検査結果レポートには検査結果項目の他に、管理栄養士監修による、ご自身の腸内細菌を良くする為の個別アドバイスもわかりますので、生活習慣改善にお役に立ていただけます。